
天使の涙、子供達の戦争

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使の涙、子供達の戦争

【Nコード】

N3937L

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

気を抜いて読んでみてください。今までで一番肩の力を抜いて書いた詩なので。でも、きつと世界に入り込める扉はいくつも用意されています。子供の頃の思い出だって、落ち込んだ日々だって、逃げ隠れた思春期だって、天使が流す涙の様な美しさが溢れているのでしょう。

全世界に向けて鳴らすサイレン

血だらけになって転がる少年の遺体

『平和の象徴』はそれでいいだろ？

この命の御蔭で笑える人もいるのでしょうか？

少年を忘れて暮らすのでしょうか？

宙吊りになって冷え切った少女の遺体

『孤独の象徴』はそれでいいだろ？

この命を犠牲にして我々は自殺を恐れる

少女は学習資料だったよ

全世界に向けて鳴らすサイレン

人間と生物の鼓膜に媚びれ付く

『生命』それって『光の象徴』だろ？

こんなに汚れた手で目を隠す

愛され続けた可愛いアイドル、『名誉の維持』の為に体売るだろ？

当時、大人気だった歌手は数年とすれば薬物依存に陥るのでしょうか

全世界に向けて鳴らすサイレン

平和と戦争に終止符を打つ

『人類』それって『破壊の象徴』だろ？

世界を救いたいなら全滅しか……。

正気な奴が何処にいるんだ？ 君だって今日、命を食べたる？

『世界平和』とは、ふざけた言葉だ。反論があるなら証明しなさい

この場を借りて、全世界と人類へ物申す

『世界』と『人』とは、何の『象徴』なのだ？

全世界に向けて鳴らすサイレン

自殺だって『孤独』であり『愛』の『象徴』だ

『歴史』とは『存在の象徴』なのか？

すぐに亡くした『命』もあるだろ？

貴方は何の『象徴』ですか？

全世界に向けて鳴らすサイレンだ

全世界に向けて鳴らすサイレン（後書き）

久し振りの投稿です。読んでくれた方、ありがとうございます。

投稿しはじめに比べればかなり成長したと自分で思えるほど、良い詩になってきたと思います。

これからいくつか作品がアップされますので、どうか読んでみてください。

かくれんぼ

冷たい空気が蔓延る、四畳半の世界
月は踊って、星空は彼女を嘲笑う

細い手首に切り刻む、生命の証
赤が滴れて、残る線は彼女を生かす

かくれんぼしていた
四畳半に逃げ隠れて
気付かない内に皆帰っちゃった

心臓に突き付けられた、鋭い言葉のナイフ
不安が滴れて、残る傷に薬は無い

冷たい空気が蔓延る、四畳半の世界
人は嫌って、孤独だけが彼女に身を寄せる

かくれんぼしていた
四畳半に逃げ隠れて
見つけれないまま、今も一人ぼっち……。

手を振る相手は明日の姿だけ
温もりをくれるのは冷ややかな孤独だけ
私はまだ隠れているのよ
塩水が頬を伝う、四畳半の世界に

かくれんぼしていた
四畳半に逃げ隠れて

本当は見えて欲しかった

心の内側まで、ちゃんと見て欲しかった

かくれんぼしていた

四畳半に逃げ隠れて

いつかは誰かが見つけてくれるかな……。

ピーマンお化けと魔法のレシピ

嫌がる事なんて分かってるくせにさ

今日だって夕食のメニューに潜むピーマン

見ただけでも叫んじゃうんだぞ

本当に嫌なんだ、食べたくない……。

憎む事には慣れていくけど、不思議と痛む心の果て
気持ち悪くて吐きそうだよ。この気持ちはなんだ？

確かめたい

君の事が本当に嫌いだ。でも、どうか見てほしい

お皿の片隅に残る姿を見て、目の前の景色は滲んでいく

繋がる手だけが『友情』じゃないって

奴を殴って初めて知った日

泥だらけになって帰った夕方

お母さんは笑顔で怒っていた

出会う事だけ求めていくけど、別れの時が来るのは怖い

僕が好んだあの子も、嫌って捨てたピーマンも……。

『さようなら』だよ……。

『子供の頃は夢を見なさい』大人は笑顔で僕に言う

忙しそうに働く先生の姿は、どこことなく『夢』が腐っていた

『これから君が出会うモノは間違いなく必要なのだよ』

『僕は大人になりたくない。夢を忘れるくらいなら……。』

お皿の片隅に残る君を見て

教室で一人、読書をするあの子を思い出した

その他の野菜に混じった君を見て

嫌々と働く大人達を思い出した

君の事が本当に嫌いだ。でも、ずっといてほしい

お皿の片隅に残る姿を見たくない。寂しさを教えたくない……。

君の事が本当に嫌いだ。社会の色に染まるだけなら

お皿から君だけ救い出して食べてやる。僕は夢を見たいから

嫌いなピーマンでも一人じゃ寂しいから

魔法のレシピにかけられた僕は大人になるから

白と黒に染めたキャンパス

透明な美を纏って、世界に現れた夏休み

生まれる場所が選べたら、次は何処に行くのかな

綺麗な制服を着飾って、桜を浴びた入学式

進んだ旅路が間違いなら、真実は誰と共にあるの？

可愛い少女は白を纏って、美しい世界に涙を落とす

汚れた彼女は黒を纏って、売られた体に愛を偽る

可憐な浴衣を着飾って、何度目かの夏休み

繋いだ手が離れたら、迷う先に人混みはあるの？

可愛い少女は黒を纏って、捧がれる愛に身を渡す

汚れた彼女は白を纏って、稼いだ銭に夢を任せる

透明な美は白と黒

その間にだって何色もあるだろ？

白に染まったら、黒に染まったら

世界は無色を失うだろう

可愛い少女は白を纏って、そのキャンパスを色鮮やかに

汚れた彼女は黒を纏って、そのキャンパスを白に塗る

色鮮やかに染めていく

染め上がって、そして、逝く

音楽は娯楽じゃない

『友情は素晴らしい』と教える先生方には失礼ですが……。僕が好きなあの子は先生が見てない所でイジメられてます死ねよ！ あの子をイジメる奴らは死ねよ！ 何もしてあげられない僕だつて……。

温かい陽の光が『気持ち悪い……』つて呟いて鼓膜から離れない、頭が狂っていく

ああ、偽りの愛を綴るラブソング、頼むから消えてくれ……。つてか、死ね！ 死ねよ！ 死んじまえよ！

音楽は娯楽じゃない！ 音楽は娯楽じゃない！

俺を救ったロックンロール、聴こえないお前が可哀相さ

音楽は娯楽じゃない！ 音楽は娯楽じゃない！

俺が綴ったロックンロール、鼓膜を破るくらいの衝撃を……。

『恋愛こそが人生』という女子高生は特に嫌い

ブスが汚ねえ化粧して茶髪の奴とハメ外す

死ねよ！ 浮かれた高校生達は

死ねよ！ イジメられっ子の気持ちを知らないだろ？

桃色に頬を染めた可愛い女の子がずぶ濡れさバケツの水は少女に……透け透けのブラウス放たれた言葉のナイフは少女を殺して……。

つてか、何？ お前らは何なんですか？

ふざけんな！ ふざけんな！

もう嫌になっちゃうぜ……死ねよ、ブス

ふざけんな！ ふざけんな！
何がなんだかわかんねえ……死ねよ！

『音楽が世界を変える』って俺はずっとそれを信じています
だからブスが聴くクソ曲が世界に響く意味がわかんねえ！
もう、死ねよ！ 音楽は甘い戯言の為に鳴ってんじゃねえ……。
もう、死ねよ！ 音楽はためえの為に鳴ってんじゃねえ……。

世界の為に鳴ってんだ
世界を壊せるロックンロールだ！

音楽は娯楽じゃない！ 音楽は娯楽じゃない！
俺を救ったロックンロール、厚化粧ブスには聴こえねえ
音楽は娯楽じゃない！ 音楽は娯楽じゃない！
俺を救ったロックンロール、イジメられた少女の頭に響く

クソ曲ばっか出回る時代でも、光の音楽がありますように……。
厚化粧ブスが堕ちた底に、光の音楽が鳴りますように……。

天才シューゲイザー

爪先揃えて並ぶ行列に『生涯』という物語を綴る
でも、どうしても、どうしても
エンディングは書けずに終わるんだ

矛先紛いの言葉を繋げる『生涯』という物語を綴る
ただ、毎日、どうしても
バッドエンドを迎えて続いていくらしい

行き着く世界は苦しみを飾る
靴を見る事が得意になった
天才シューゲイザー

目的、結果などに求める『未来』は
臭いを醸して苦難を着込む物語を綴る
何秒でも、何年でも、終わりを見るのは
間違いなく『イマ』らしい

塗り潰す過去に花束を捧ぐ
靴を見る事が得意になった
天才シューゲイザー

可愛い少女の遺体を眺めて生きていける気がした
病院で寝たきりの両親を見捨てて死ねる気がした
可愛い少女の笑顔を眺めて生きていける気がした
病院で寝たきりの両親の為なら死ねる気がした

繰り返す日々に記念碑を与える
靴を眺める事にも飽きた
天才シューゲイザー

辿る世界の果てには物語りを綴る
靴を眺める事ばかりで疲れた
天才シューゲイザー

爪先揃えて綴るのに飽きた 天才シューゲイザー
矛先紛いの言葉を翳して 天才シューゲイザー

南風、麦わら帽子

日差しが強い太陽の下、無色の紫外線、揺れる陽炎
友達が消えていった朝、涙を眺めても、何も感じない

精一杯保ってきた、自分を装う麦わら帽子

どんなに怖い紫外線からも逃げる術を少し学んだ

風吹けば、怯えよう

偽った個々が飛ばぬように、嘘を被る

視線が痛い大都会の夢、群集の喧騒、濡れる手の平
最愛の子が死んだ朝、冷気を知っても、涙は見れない

スクランブル交差点、擦れ違う少女が向かう場所
身を削る日常を抜けて到達する場はネオンを見下す

風吹けば、怯えよう

彼女の言葉が偽りを脱がすから、塩水が伝う

南風、麦わら帽子を浚っていく

嘘を消さないで、紫外線が痛いから……。

風吹けば、怯えよう

偽った個々が飛ばぬように、嘘を被る

風吹けば、怯えよう

彼女の言葉が偽りを脱がすから、塩水が伝う

南風、
麦わら帽子を……。

High School Kill Me .

窓際の一番後ろ、そこが空席だろうと、クラスは変わらないんです。明里ちゃんは楽しそうに笑います。詩織ちゃんは彼氏と惚気ます。今日は僕がそこに居るから、クラスは何だか静かな模様です。

『学校に来なさい』と先生方が怒って言うって

『学校に行きなさい』と両親は怒鳴って言います

僕の気持ちを知っていますのですか？

切り傷だらけの左腕と色を失った僕の心を……。

知っているのですか？

僕は高校に殺されていく

僕はクラスの皆に殺されていく

僕は先生方に殺されていく

僕は両親の愛に殺されていく

窓際の一番後ろ、そこから君の事をチラチラ見ているのです。

君はいつも幸せそうに笑います。君は僕の太陽なのだ、と思います。授業中、僕と目が合った君は綺麗な笑顔で微笑んでくれた……。

『学校に来るな』ってクラスの皆は僕に言う

『学校を辞めちまえ』って先生方は呆れて言います。

矛盾という言葉があるのです。

僕の居場所は『居るべき』此処で、『嫌われた』此処で……。

どうしたらいいのですか？

僕は高校に殺されていく

僕はクラスの皆に殺されていく

僕は先生方に殺されていく

なのに……君は僕と目が合って微笑んでくれたのです。

天使にしか見えなくて、死んだのだと思ったのです

だから僕は左腕を切り裂いてみるのです

それでも、やっぱり赤色は滴れたのです……。

僕は高校を殺したい

可愛い君を連れ去って

僕はクラスの皆を殺したい

可愛い君を連れ去って

僕はもう死んでるみたいです

だから天使さん、どうか僕にまた微笑んで……。

動く心臓なんか無くなっていい

天使の笑顔が見れるのなら……。

僕は高校を殺したい

天使と悪魔のラブストーリー

嫌いな人、一人在ったなら殺す覚悟で嫌いになりたい
好きな人、一人在ったなら犯す覚悟で好きになりたい

嘘を浮かべて曇る空

『真実』が姿を消した朝

苦い物、一つ在ったなら顔を歪ませて食べてやる
辛い物、一つ在ったなら燃える覚悟で食べてやる

嘘を並べた食器棚の中

『真実』だけが汚れを纏う

ああ、僕の中に暮らす天使は昨夜、自殺したよ

ああ、君の中に暮らす天使は今朝、水死したよ

テーブルのコップには、塩水だけが溜まっていく
心に空いた穴には、不安が積もっていくばかり

悪魔が涙を流した夕方

自殺した中学生をテロップで励ます

切り替えが早いニュースキヤスター

その子の命はそんなモノだったのかね……。

ああ、僕の中の悪魔は今日、涙を流して微笑むよ

ああ、君の中の悪魔は今日、天使を殺して微笑むよ

悪を評した茜色の空

『正義』だけが嘘を纏う……。

鬼ごっこ

涙で描いた範囲の中で走り回るは繰り返す日々
鬼に似合わぬ寂しさと桜が散った、一人きりの校庭

机に塗られた嫌味を眺めて迷った世界は夢の中
鬼に似合わぬ情けなさで涙が刻んだ、罪悪感の傷

精一杯、追い掛けるけど
皆には全く、手が届かない……。

教科書の希望が黒に染め上がった朝は晴天快晴
鬼に似合わぬ塩水と手首を絞める、正義の包帯

精一杯、追い掛けるけど
皆は又しても、逃げていく……。

少しだけでも近付いて欲しかった
私の手が届く距離にいて欲しかった

涙が記した教科書通りに見下ろす景色はネオン街
鬼に似合わぬ孤独感と見渡す世界、見えない階段……。

精一杯、追い掛けたけど
皆には全く、手が届かない……。

精一杯、追い掛けたから
今度は皆が追い掛ける番だよ……。

私が歩んだ階段の最終地点で待ち合わせ

虹色の世界

これから『僕の世界』のヒロインは『君』にする事にした裏切らないで、見捨てないで、無色の世界を染め上げる僕と君の二色から、無限の絵の具を手にする物語

散っていった桜と並び笑顔を浮かべる記念写真
どうやら、燃えるゴミの日に出しちゃったみたいだ

『さようなら』した思い出達から

『こんにちは』した喪失感に……。

ハローグッバイ、とりあえず、『ありがとう』

死んでいった少女の隣で涙を流す参列の景色
ざっと二週間とすれば在った命は幻となるでしょう？

『さようなら』した登場人物

『こんにちは』した『為になる傷』に……。

ハローグッバイ、とりあえず、『ありがとう』

今まで一人だった『物語』が今日から二人になる夢を僕は見ているよ。ヒロインが『君』になるって作り上げてきたものは、皆、目の前で崩れてしまう……。愛してきた人達は、皆、目の前から消えていく……。

『さようなら』したい自分がいて

『こんにちは』と言う君がいる

ハローグッバイ、何もかも始まりと終わりは共にあるらしい

『さようなら』とりあえず、今まで在ってくれて、ありがとう
『こんにちは』とりあえず、今出逢ってくれて、ありがとう

ハローグッバイ、ありがとう

無色だった世界は、君が染めたよ

無色だった世界は、僕が染めたよ

無色だった世界は、虹色になったよ

『学校』という戦場にて……死ぬ。

ねえ、先生。おかしいよ、いくら探したって僕の筆箱が見当たらない机にない。ロッカーにない。鞆の中にも入ってない。

田中くん、君の仕業？ 僕が静かだから苛立つてるの？

斉藤くん、君の仕業？ 僕が一人だからからかっているの？

嫌だ…もう、嫌だ……。

君を殺して、自殺したいよ……。

嫌だ…もう、嫌だ……。

君を殺して、自殺したいよ……。

誰か泣いてくれるのかなあ……。

ねえ、先生。大人達は僕みたいな子供を見捨てないの？

面倒でしょ？ 可哀相でしょ？ 飲み会のネタにでもして……。

明里ちゃん、僕をご存知？ 僕は君の事が大好きなんだよ

詩織ちゃん、僕をご存知？ 僕は君の事も大好きなんだよ

嫌だ…もう、嫌だ……。

君を犯して、自殺したいよ……。

嫌だ…もう、嫌だ……。

君を犯して、自殺したいよ……。

誰か笑ってくれるのかなあ……。

放課後は一人の旅路、降り懸かるは奴らの唾液

『負けてなるものか！』って意気込んで、明里ちゃんを夢で犯す

放課後は地獄の試練、先生達は奴らを見ない

『イジメられてない!』って嘘付いて、詩織ちゃんを想ってオナる

ねえ、先生。助けてよ、それが『大人』って生き物でしょ？
ねえ、先生。助けてよ、それが『仕事』で生きてんでしょ？

嫌だ…もう、嫌だ……。

学校を燃やして、自殺したいよ……。

嫌だ…もう、嫌だ……。

学校を燃やして、自殺したいよ……。

戦争で死んだ君達へ、学校に行きたかったのかい？

僕は…僕は今、『学校』という戦場で死ぬ

病気で死んだ君達へ、学校に行きたかったのかい？

僕は…僕は今、『学校』という戦場で死ぬ

そう、殺されちゃうんだよ……。田中さんと斉藤くんを殺した後

そう、殺されちゃうんだよ……。明里ちゃんと詩織ちゃんを犯した後

天使の涙

大都会の喧騒に塗れて手首を隠す包帯
世界の『平和』なんて数々の戦争で死んでいったよ
希望のビルに飛行機が突き刺さった瞬間
間違いなく、世界は変わった、と言えよう

時代を濡らす天使の涙
亡くした者達の幻のメロデー

21世紀に迷い込んだ僕達のロストジェネレーション
大人が期待しなくなった頃、子供達は殺されたんだ
地下鉄で命を終えた人達のニュース
間違いなく、世界は変わった、と言えよう

時代を濡らす天使の涙
殺された生物達の幻のメロデー

軽薄な言葉を並べたラブソング、街を埋め尽くす偽りの愛
魅力ないダンスと無知なラブソング、街を埋め尽くす偽りの愛

大都会、高いビルの屋上から見る景色
偽りの唄じゃ飛び立つ少女は救えないだろ
世界と正面から睨み合う衝撃の唄を
間違いなく、世界は変わる、と言えよう

時代を濡らす天使の涙
殺された子供達の幻のメロデー

時代を濡らす天使の涙
殺された音楽からの幻のメロデー

子供達の戦争

古びた建物に迷い込んだスズメは最後、子供達の好奇心に殺される世界に馴染めない彼女は眠らずに朝と出会い、刑務所からはイビキが聞こえる

頭が悪い君達には、僕の詩の意味も届かないんだね

頭が悪い君達には、僕の詩の意味なんて……死んでくれ！

腐ったフランスパンを凶器にして、清楚な小学生を異世界へ送ろう
イジメられてる少女の言葉は遮断され、有りもしない嘘が自由に駆け回る

頭が悪い君達には、少女の気持ちなんて分からないんだね

頭が悪い君達には、少女の気持ちなんて……死んでくれ！

屋上に立った少女をUFOが迎えに行くよ
真っ黒に輝く希望のUFOが迎えに行くよ

学校という戦場に送り込まれた子供達は、友情と愛情の毒にやられ
言葉の凶器を振りかざすバトルロワイヤルと化していくのでした……。

頭が悪い先生達には、子供達の繊細な想いも届かないんだね

ライフルを抱えた少年と携帯を握る女子高生、どうして同じ世界に
生まれたんだ

文化の違いはあれど、発展の違いはあれど、同じ生命を貰ったのだ

戦場で戦う意味を問う

学校も戦争も誰が『大切』だって教えたのですか？
矛盾と難題の果てに広げられる、子供達の戦争

戦争を行う価値を問う

少年も少女も誰もが『大切』だって
教えたのは貴方達、大人でしょう？

頭の悪い君達と、頭の悪い僕達は、戦いを繰り返して

カミソリを握った少女をUFOが迎えに行くよ

世界を愛した病気の少女をUFOが連れて行くよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3937/>

天使の涙、子供達の戦争

2010年10月8日12時03分発行